



宮山城跡の土塁

久居地域の戸木町には、旧街道沿いを中心とした集落が東西に広がっています。集落の北側、国道165号を挟んだ山裾には敏太神社があり、この神社の裏山に戦国時代に築かれた宮山城跡があります。

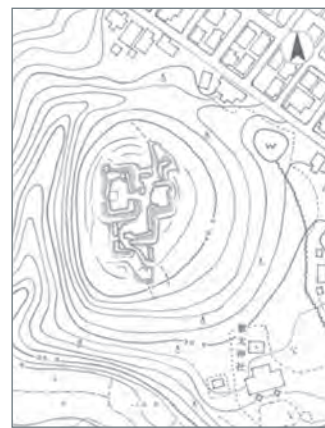
城の中心となる曲輪は山の最も高い所に位置し、南北約20m、東西約10mの規模で、周囲には現在も高さ2〜4mの土塁が取り巻いています。その周辺を防御する空堀や土塁も屈曲が多く、簡単には城の中心にたどり着けないように工夫されています。

この城は、南方約600mに位置する戸木城（市指定史跡）とともに、天文年間（1532〜1554年）に木造具政



城山城跡

によって築かれたとされています。木造氏は北畠氏の一族で、宮山城の南東約4.5kmにある木造城（市指定史跡）を本拠としていました。

宮山城跡実測図
（「伊勢の中勢」第78号から転載）

天正12（1584）年、木造氏は織田信雄軍の一員として、羽柴秀吉軍の蒲生氏郷と戦うこととなります。その際、宮山城は木造氏にとって対蒲生軍の防御拠点となっていました。が、落城し、逆に蒲生軍による戸木城攻めの拠点になったと考えられます。現在見られる屈曲した空堀や土塁は、この時、蒲生軍によって造られたと考えられています。また、宮山城



の北東約500mにある城山城も、宮山城とよく似た構造をしています。さらに、青葉台の住宅地にある上野遺跡からも、16世紀後半のものと考えられる大規模な堀や土塁などが見つかりました。いずれも蒲生軍の戸木城攻めの拠点の一つであったと考えられています。

このように戸木の地には、戦国時代、戦に明け暮れたころの城跡が残っています。城跡を訪れて地域の歴史を感じてみてはいかがでしょうか。

（「広報津」平成25年7月16日号）